

米国の景気・雇用・物価動向と債券利回り

ポイント① 10年国債利回りは7年ぶりの高水準

米国の10年国債利回りは8月下旬の2.8%近辺から10月上旬にかけて大きく上昇し、2011年7月以来の3.2%台まで上昇しました。米債利回り上昇によって、足元で世界の金融市場はやや不安定化しています。

債券利回り上昇の背景には、インフレ率上昇の懸念が高まったことがあります。図1が示すように、10年国債利回りは商品価格指数と連動する傾向が見られます。イランなどの中東情勢の不透明感から原油価格が上昇したことなどから商品価格が上昇しています。原材料、エネルギーなどの川上の商品の価格が上昇すると、それが波及して川下の物価上昇につながる可能性があります。

ポイント② 景況感指数は高水準

米景気が堅調に推移していることも、インフレ懸念を高める一因となっているようです。10月1日発表の9月のISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は、前月より低下したものの、高い水準を維持しています。3日発表の9月のISM非製造業景況感指数は、前月から上昇して1997年8月以来の高水準となりました。

景気拡大を受けて雇用情勢も堅調です。10月5日発表の9月の米雇用統計によれば、失業率は8月の3.9%から3.7%へ低下し、1969年12月以来の低水準となりました。一方、非農業部門雇用者数は、前月比+13.4万人と8月の+27万人から鈍化しました。しかし、8月の水準は上方修正されている上、9月はハリケーンの影響を受けたと見られ、雇用の実勢は強いようです。

ポイント③ インフレ圧力はそれほど強くない模様

ただし、実体的にはインフレ圧力はそれほど強くなっていないようです。8月のエネルギー、食料品を除く個人消費支出デフレーターは、前年同月比+2.0%とFRB（米連邦準備制度理事会）の2%のインフレ目標に合致しましたが、前月比では横ばいに留まりました。9月の時間当たり賃金は前年同月比+2.8%と8月の+2.9%を下回り、加速感はそれほどありません。今後もインフレ率が2%前後で安定すれば、金融市場でのインフレ率上昇懸念はこれ以上高まらず、米国債券利回りの上昇にもブレーキがかかるものと見られます。

重要
イベント

10月11日 米消費者物価指数(9月)
10月15日 米小売売上高(9月)
10月16日 米鉱工業生産指数(9月)

図1：米10年国債利回りと商品価格指数

期間：2017年1月2日～2018年10月8日、日次

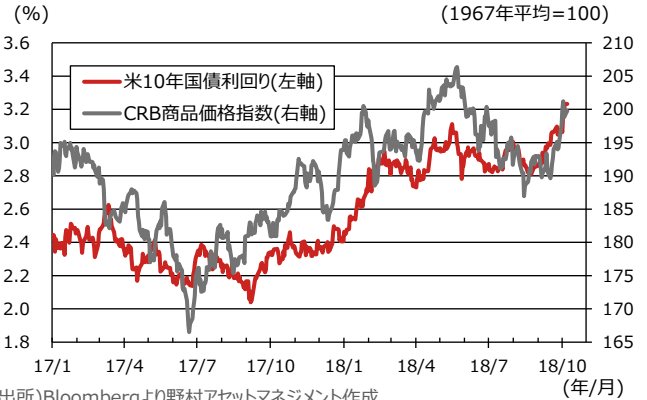


図2：米国ISM景況感指数

期間：1997年1月～2018年9月、月次

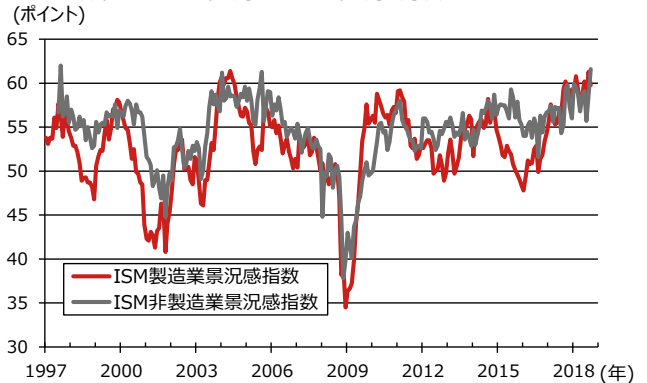
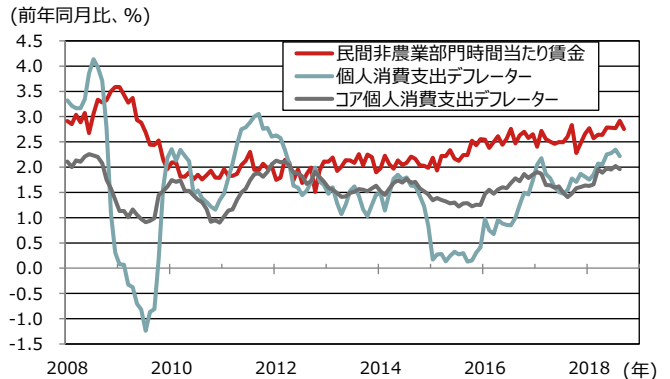


図3：米国時間当たり賃金と個人消費支出デフレーター

期間：2008年1月～2018年9月、月次



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。